



## 将来像実現のために

### 住み慣れた地域で安心して暮らせる まちづくりを進めます

すべての住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、社会参加や医療・介護・福祉サービスの連携によって支え合うまちをつくりまします。

## 分野を代表する指標

### Well-Being

偏差値

私は、町内の人が困っていたら  
手助けをする

現状値 (R7)

77.6

目標値 (R12)

77.9

### Well-Being

偏差値

困ったときに相談できる人が  
身近にいる

現状値 (R7)

35.9

目標値 (R12)

50.0

重層的支援による対応件数

現状値 (R6)

—

目標値 (R12)

40件/年

介護予防ポイント申請者数

現状値 (R6)

364人

目標値 (R12)

600人

※介護予防ポイント…介護予防活動(セルフケア活動・サポート活動)の実績に応じて付与されるポイント

## 関連するSDGsのゴール



データ集へのリンクは  
こちらから



# 現状と課題



## 高齢者支援

- 粕屋町の高齢者数は増加しており、サポートが必要な独居高齢者や高齢者のみの世帯なども増えています。こうした中、認知症への理解促進や相談先の周知、地域で支える仕組みの整備が課題となっています。



## 介護保険

- 高齢化の進行に伴い、介護保険事業費の増加が見込まれます。サービスの質を確保しつつ、給付の適正化や介護認定の公平・公正な審査を持続的に行うための体制整備が求められています。

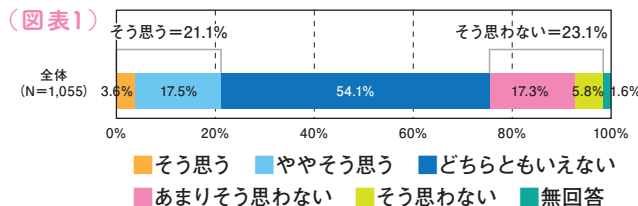


## 障がい者支援 (図表1)

- 町民アンケートでは「障がい者が地域や社会の中でともに暮らせていると思う」と答えた人は約2割と低くなっています。障がいのある人やその家族への支援の充実が必要です。

### 【町民意識調査(R6)】

障がい者が地域や社会の中でともに暮らせていると思いますか



### 住民・団体等

- ゆうゆうサロンやシニアクラブ等の地域での活動に積極的に参加する。
- 高齢者の就労の機会や居場所を提供する。
- 困っていることがあれば相談する。



## 社会福祉 (図表2)

- 町民アンケートでは「困ったときの福祉相談窓口を知っている」と答えた町民は3割程度にとどまっています。誰もが困りごとを相談できるように福祉相談窓口の認知度を向上するとともに、複雑化・複合化した地域の生活課題に、関係各課及び関係機関との重層的な支援体制が求められています。

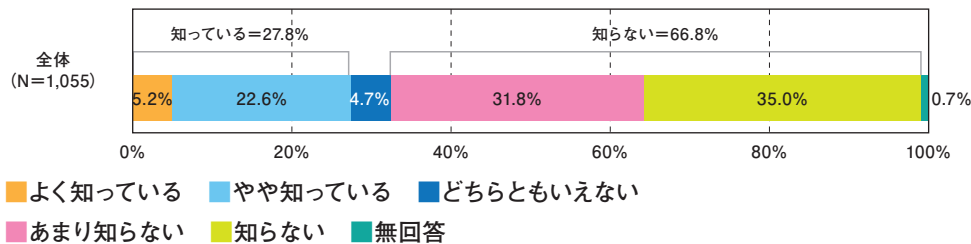


## 窓口サービス

- 住民の異動手続きを1つの窓口で完了できるワンストップサービスを提供するなど、窓口の利便性向上に取り組んでいます。しかしながら、手続きの複雑化や来庁者の集中により、待ち時間が長くなるなどの課題があります。今後は、窓口業務のデジタル化を進め「書かない窓口」や「行かない窓口」の実現を図るなど、自治体フロントヤード改革の推進が求められています。

### 【町民意識調査(R6)】

困ったときの福祉相談窓口を知っていますか (図表2)



### 行政

- 地域での活動を支援する。
- 高齢者の就労やボランティア活動を支援する。
- 相談窓口を設置・運営する。



## すべきこと 1

### 高齢者に寄り添う支援をします

#### 取組.1 | 認知症に対する知識の普及

- 認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する正しい知識や対応方法について学ぶ機会を提供します。
- 認知症の啓発イベント、認知症カフェ<sup>※</sup>や相談会などを開催し、認知症になっても生活しやすい地域を目指します。

#### 取組.2 | 認知症に関する関係機関との連携

- 認知症の相談があった際には、地域包括支援センター、初期集中支援チーム、警察、ケアマネージャー、民生委員や医療機関等の関係機関と連携しながら、本人や家族を支援します。

#### 取組.3 | 高齢者の相談先の周知

- 高齢者の相談先の認知度向上のため、高齢者の総合的な相談を受けている地域包括支援センターについて、様々な場面で周知を行います。



## すべきこと 2

## ！ 重点プロジェクト

### 高齢者の自立を支援します

#### 取組.1 | 高齢者の自立に対する支援

- 高齢者を対象に、運動、音楽、料理などの講座を開催し、介護予防の知識や他者との交流によって、いきいきと自立した生活を送れるように支援します。
- 介護予防教室の受講に対して換金可能な介護予防ポイントを付与することで、積極的に介護予防に取り組む高齢者数を増やします。

#### 取組.2 | 多様な介護予防主体への支援

- 住民主体で実施される「ゆうゆうサロン」は、高齢者の通いの場であり、ボランティアにとっても地域で役割を持つ貴重な場となっています。運営支援や情報提供、人材育成のための研修等を通して、継続的な活動の充実を図ります。

#### 取組.3 | 高齢者を地域で支える仕組みづくり

- 高齢者に関するサポーター（ボランティア）の育成や研修を実施し、通いの場や介護予防教室などでサポーターが活躍できる体制を整えます。

※認知症カフェ…認知症に関心がある人が、ボランティアや介護・福祉などの専門家と身近な場所に集い、交流できる場



### すべきこと 3

## 介護保険制度を健全に運営します

### 取組.1 | 介護サービス給付の適正化

- 介護保険事業費の増加が懸念されるため、介護サービス給付が適正であるように、ケアプラン点検と事業所への指導を行います。

### 取組.2 | 介護認定審査の適正化

- 介護サービス利用のために介護認定が必要な方の審査を行います。公平・公正・迅速に審査するため、認定調査員、審査会委員、事務局員に対して定期的に研修を行います。

### 取組.3 | 指定事業所の指定、指導・監督

- 地域で必要とされる介護サービスの充実を図り、提供する事業所を指定します。また、指定した事業所が適切に運営されるよう指導・監督を行います。



### すべきこと 4

## 障がいのある人の暮らしを支えます

### 取組.1 | 相談支援機関との連携

- 相談ケースに応じて迅速に対応できるよう、日頃から相談支援機関と連携を図ります。また、本人が暮らし方を選択できるよう、必要な支援や情報の提供を行います。

### 取組.2 | 障がいへの理解促進

- 障がいや障がいのある人に対する町民の理解を深めるため、人権のつどいや福祉の日などを通して周知・啓発活動を行います。

### 取組.3 | 日中活動の場の提供

- 障がい福祉サービスの提供に加え、障がいのある方の地域での生活を応援するため、相談や活動の場を提供する地域活動支援センターの利用を支援します。
- 障がいのあるこどもの発達促進や安心して過ごせる居場所づくりとして放課後等デイサービスなどの安定的な利用を推進します。



## すべきこと 5

### 生活の困りごとへの相談支援を充実させます

#### 取組.1 | 重層的支援体制の整備

- 介護と育児のダブルケアや引きこもりと生活困窮など、個人・世帯が複数の課題を抱えており、より複雑化・複合化した生活課題がある場合に、課題全体を捉えた一体的な支援を行うため、高齢者・障がい者・子ども・生活困窮者といった各分野を超えて相談・支援を行う重層的な支援体制を整備していきます。

#### 取組.2 | 福祉相談窓口の周知

- 相談窓口の認知度を高めるため、広報紙、ホームページ、SNSを活用した情報発信を行います。
- 福祉に関する相談時に、内容や緊急度に応じて、困りごと相談室や社会福祉協議会等の関係機関との連絡調整を行います。

#### 取組.3 | 支援機関との連携

- 相談ケースに応じて迅速に対応できるよう、日頃から福祉事務所、困りごと相談室、社会福祉協議会等の機関との連携体制を強化し、必要な方に必要な情報が届けられるよう民生委員などの支援者との情報共有を行います。



## すべきこと 6

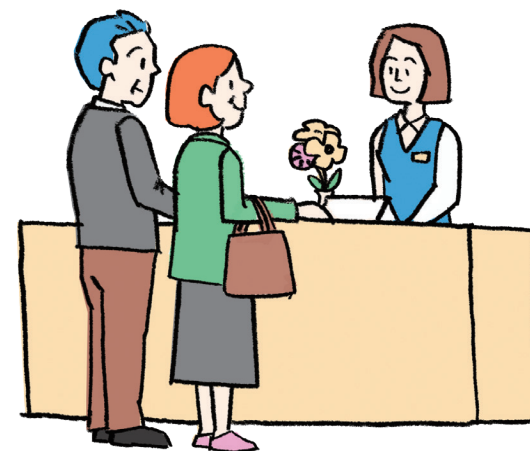
### 窓口サービスを充実させます

#### 取組.1 | 自治体フロントヤード改革<sup>\*</sup>の推進

- 自治体フロントヤード改革を進め、窓口業務のデジタル化や対面対応の質を高め、住民にとって利用しやすい行政サービスを実現します。

#### 取組.2 | 書かない・行かない窓口の推進

- 来庁時に申請書を記入しない「書かない窓口」の推進に向け、来庁前の事前入力やマイナンバーカードの連携による申請手続きの簡素化を進めます。
- 来庁せずに手続きが完結する「行かない窓口」の充実に向け、コンビニ交付サービスやマイナポータルによるオンライン手続の利用を促進します。



\*自治体フロントヤード改革…自治体と住民との接点(フロントヤード)の多様化・充実化、窓口業務の改善などを通じて、住民の利便性向上と職員の業務効率化を図ること

## 第6次粕屋町総合計画ができるまで ～市民参画の取組・ワークショップ編～

### 「かすや未来創造ワークショップ」および「高校生ワークショップ」を開催しました!

「第6次粕屋町総合計画」は策定の過程で、アンケート調査やワークショップなどの市民参画を通じて、多くの方々の声を反映しています。

この市民参画の取り組みの一環として開催した、若い世代を中心とした約25人がオンラインでさまざまな意見を交わした「かすや未来創造ワークショップ」や魁誠高等学校の生徒が自分たちの意見をまとめ、箱田町長へプレゼンを行った「高校生ワークショップ」の様子をお伝えします。

#### かすや未来創造ワークショップ

##### 開催概要

- 開催日時: 令和6年12月19日(木)18:00-19:20
- 開催方式: Zoom会議
- 参加者: 粕屋町のまちづくりに興味がある町内外の約25名の方
- 主なプログラム:
  - 「ここが大好き、かすやまち!」(参加者による発表)
  - 「かすやまちの未来について考えよう!」(参加者によるトークセッション)



▲当日のオンライン会議の様子

✓参加者のみなさんそれぞれの「粕屋町の好きなおとこ」について、熱いコメントをいただきました!

✓画面に入りきれないほどたくさん仲間と一緒に参加して下さったチームもあり、終始和やかな様子で積極的な意見交換が行われました。

#### 高校生ワークショップ

##### 開催概要

- 開催日時: 令和6年9月~10月に3回開催
- 実施場所: 福岡県立福岡魁誠高等学校
- 参加者: 福岡魁誠高等学校「粕屋町研究会」の生徒21名
- 主なプログラム:
  - 「未来の粕屋町を表現するキャッチフレーズ」と「めざすまちの姿を実現するために必要なこと」をグループで検討・グループで検討した内容を高校生自ら町長へプレゼン



▲プレゼンの様子(上)町長からの講評の様子(下)

✓生徒たちは、グループごとにそれぞれのテーマについてタブレットで必要な情報を収集しながらディスカッションを行い、自分たちの考えたキャッチフレーズやその思いが、どうしたら町長や町民のみなさんにより伝わるかを一丸となって考えました。

✓どのグループも発表に向けた準備をしっかりと行い、緊張しながらも、しっかり町長へのプレゼンテーションを実施しました!